

### 第3回河内長野市の学校における食育及び 中学校給食調査検討委員会議事録（要約）

日 時 平成21年11月27日(金) 午後3時

#### ○事務局

定刻となりましたので、ただいまより、第3回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催させていただきます。

それでは、議長であります委員長にバトンタッチさせていただきます。委員長よろしくお願ひします。

#### ○委員長

皆さんこんにちは。

それでは、第3回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催いたします。

まず、最初に前回の会議において、聞きもれやご質問等ございませんか。

ないようですので、私のほうから、前回の会議において、岸和田市の件で宿題があったと思ひますが、事務局の報告をお願いします。

#### ○事務局

前回の会議において、中学校給食に関わるアンケートの中で、岸和田市において、給食を望む保護者の数が他市に比べると非常に少ない理由は何かを調べるようにという宿題をいただきました。岸和田市に問い合わせたところ、岸和田市もその点を詰めていませんが、この数字になったのは、従前から家庭からの弁当持参を基本にしているためではないかということに理解しているという回答でした。そして岸和田市において、年々、中学校給食を希望する保護者の数が幾分か増加傾向にあるということでした。以上でございます。

#### ○委員長

委員の皆さん、今の事務局の説明でよろしいでしょうか。

岸和田市では家庭からの弁当持参を周知徹底しているためと理解したらよいのではないのかと思ひます。

それでは、会議次第に基づき、事務局で資料の説明をお願いいたします。

#### ○事務局

P1～2（1. 食育の推進の必要性 5. 食に関する指導計画について）説明

#### ○委員長

はい、ありがとうございました。

ただ今、事務局より第1回、第2回のまとめを含めて、今回の食に関する指

導計画ということで、全体計画の中で、各教科において具体的にどうするのかを説明していただきました。

この検討会議は、食育を検討していただき、その延長上に中学校給食はいかなものなのかを視野に入れて、食育の大切さについて皆さんで深めていくということだと思えます。

お手元に配布しました新聞記事ですが、この記事は食育の必要性について語っていると思えます。

この記事のタイトルは「朝食をとれば頭・体さえる」ですが、朝食をとることが、栄養のバランスだけではなく、体調不良を起こさなくなり、頭がさえて学力向上になる。この記事を読むと、あらためて、家庭と学校がいっしょになって、食育をすることの大事さを感じることができる。

どうでしょうか、今の話も含めまして、学校給食をどのように位置付けするかということと指導計画と関連します。前回、長野小学校の食育の具体的な説明をしていただき、そのことも含めまして、何かご意見、ご質問がございましたでしょうか。

#### ○委員

何年か前にPTAの教養研修において河内長野市の栄養士さんがお母さん達に短時間で簡単な朝食を作るという調理実習をして下さいましたときに、「朝食をとれば頭・体さえる」と同じようなことが私の印象に残りました。その実習の内容は、子ども達がバランスのいい朝食を食べることにより、朝からスイッチが入り、そして学校でしっかり勉強ができるので、お母さんががんばってくださいということでした。その学校で、給食センターの栄養士さんが栄養指導に来てくださるということが定着しまして、それが教室で生徒に対してすごくわかりやすく栄養指導してくださるのです。参観日において栄養指導を保護者と子供がいっしょに楽しく受けているので、家に帰ってからも、保護者と子供との間でそのことが話題になって、お母さんもがんばろうという気持ちになる。結局、その学校で食育という取り組みに発展していきました。

#### ○委員長

以前から、このようなことについて保護者の理解が深められている。

冒頭の「日本の子どもは、なぜ授業中たくさん寝るようになってしまったのでしょうか」に関して、私の大学の学園祭で、卒業生の松田陽子というシンガーソングライターがステージで歌っているとき、観客である学生はほとんどが双方向に楽しんで盛り上がっているのに、中には寝ている学生がいるのです。僕が授業しているときも中には寝る学生がいるのです。そのような学生は夜十分寝ることができないということが日本全体にあるのだなあと思えます。

この記事を読み進めると、そうだと合点することが多々あります。今のこう

いう機運が高まっている時にやっていかなければならないと感じます。

この記事も参考にさせていただいて、何かお気づきの点がございましたら、学校はひとつの指導する立場にありますので、学校長のほうで何かございますか。

○委員

私の中学校で調査した結果、朝食を食べてこない生徒の割合が8%もいる。

その生徒は授業中に寝ていることがある。体験学習の時間にも寝ている。

本校では、PTAを対象に食育として、朝食の調理講習会を開催しました。

○委員長

委員ありがとうございました。

いかがでしょうか、ほかにご意見ございませんか。

○委員

この記事にありますように、習慣を変えれば行動が変わり、行動が変われば態度が変わる。態度が変われば心が変わり、人生が変わる。そのひとつのきっかけが「食べる」ことであつたりします。「食べる」ということは誰でもすることで、非常に密接に関係します。「食べる」ということは食育のテーマとして、やりやすい部分です。うちの学校でやろうとしていることは、低・中・高学年それぞれテーマを決めて、低学年には文部科学省の食育教材を使って、「世界でひとつのおにぎりを作ろう」というテーマで、各家庭の意識啓発を目的として、冬休みに各家庭でおにぎりをにぎってもらい、それを絵にしたり、デジカメで撮ったりする内容です。中学年には、「我が家の野菜たっぷり暖かメニュー」というテーマでイメージ図を描いてきてもらう。高学年には「郷土食」あるいは「行事食」というテーマですが、このあたりの「郷土食」をテーマとするのは難しいので、「行事食」というテーマで、たとえばおせち料理とか花見とか誕生日とかクリスマスなどの我が家のイベント時に作る料理のメニューを作ってもらう。それを冬休み明けに回収して、学校で全員分を展示して、啓発しようと考えております。このことがどれだけの教育的効果があるかは疑問ですが、このような家庭へのアプローチが非常に難しいと感じています。

○委員長

ありがとうございました。

中学校では各教科でしておられると思いますが、中学校のほうはどうですか。

○委員

家庭科で食べるものを全般的に教えております。たとえば理科の授業において、学校の先生が食育に関連して教えていますが、まだ本格的に、食育を行っておりません。全体計画としては、学校全体で食育に取り組みなければならないと思います。

○委員長

ありがとうございました。

中学校では教科において内容を精査しながら、みんなやっぺいこうことでした。

ただいま、学校のほうからお話していただきました。家庭ではいかがでしょうか。

○委員

「早寝・早起き・朝ごはん」とてもいいことだと思いますが、今は共働きの家庭が多く、そこのお母さんは大変なため、朝食は菓子パンと牛乳ですますお母さんが多いと思います。「品数が多いほど成績が良い」というのはわかりますが、大家族では分担して朝食を作り、家族全員で朝食を食べる場合は品数を多く作ることができると思います。核家族でお母さん一人が朝食を作っており、それは大変ことだと思います。

私達は市内中学校・小学校・幼稚園22校の母親代表が月1回集まって食育の話をするのですが、ほとんどお母さんが朝食はパンと牛乳ですましています。理想は朝食の品数を多くし、時間をかけて食べればいいのですが、今の状況では難しいのではないのかと思います。

中学生になれば、塾の帰りが10時とか11時になり、なかなか朝早く起きてこない。そして、朝食もそこそこにとり、学校へ登校する。このような悪循環になっています。

現代の世相が反映して、子どもに悪影響を与えている。難しい問題で、なかなか簡単には解決ができないと思います。

○委員長

現代の世相が反映して、難しい問題で、だからこそ意味があると聞かせてもらいました。

学力調査の結果と食育との関係があるのかと思います。日本の中で、トップの秋田県と大阪府との間で学力に大きな差がある。大阪府のような都会の子どもは寝るのが遅い。大阪の中でも、河内長野市は学力についてはトップレベルだと思います。そういうことで無視できない状況にあります。

○副委員長

私の子どもは中学校で体育会系のクラブに入っていましたので、子どもはクラブで疲れて帰ってくると早く寝て、朝早く起きるから、私もいっしょに早く起きますので、朝食をきちんと食べて学校へ行きました。それで、健康で中学校3年間一度も休んだことはありませんでした。

中学校になると、運動クラブが廃部になったとか理由で、運動クラブに入らない子ども達が多くおり、その子どもの中には学校から帰ってきてゲームばかり

りして頭だけ使い、体を動かさないのも、疲れることがない、そして夜遅くまで起きて、朝遅く起きて朝食も食べずに学校へ登校する。このような悪循環になっています。

#### ○委員長

先日、勤め先の学校へ行く電車の中で、一人の男性が朝食のパンを食べ始めた。食べ終わると、今度は歯を磨き始めた。このような常識のない大人が増え始めている。

今の子ども達の実態からすると、食育の必要性はあると思います。忙しい親が多いですが、8割9割の常識のある親が子ども達の生活を基本に戻してやらなければならない。そして学校が音頭を取って食育を行い、その中で子ども達が理解をしていく食育計画を立てる必要があります。

一通りみなさんのご意見をいただきましたので、次の大きな点があると思いますが、それは「指導計画」と「全体計画」と「指導の展開」です。

概ね事務局のほうでまとめてもらっていますが、このことについて何か意見はございますか。

#### ○委員

学校での食育についてですが、私自身がすごく思うことは、この新聞の最後に書かれているのは、「子どものモデルにする大人がいないと思います。私たち大人の責任です。」ということを感じています。忙しくておかあさんが弁当を作ることができないことはいろんな事情があって、私自身も「おとなの覚悟」ができていない。こどもを育てることは大変なことです。私は朝子どもの弁当を作っていますが、皆さんに弁当を作ってくださいとは言いません。「おとなの覚悟」は朝ごはんを作ることだけではないのですが、どうも「おとなの覚悟」というか親の覚悟はどうも薄くなっています。市として子育てへの支援プログラムに組みこめないのかと思います。

#### ○委員長

若者がだらしないとか緩んでいるのではないかと言いますが、このことは大人の姿の反映だと思います。だからこそ、大人がきちっと覚悟しなおさなければならない。

事務局のほうでうまくまとめてもらっています。1ページの最初に食に関する指導の全体計画について、①、②、③で学校における食育の必要性を掲げています。「各学校において食に関する指導に係る全体計画が策定されることが必要であり、これを積極的に促進する。特にその際には、学校長のリーダーシップのもとに関係職員が連携・協力しながら、栄養教諭が中心となって組織的な取組を進めることが必要である。」と各学校での全体計画の必要性を掲げています。

このように学校における全体計画を重視している理由として次のような点があげられます。

- ① 学校における食育は、給食の時間、特別活動、各教科等の様々な教育の内容に密接かかわり、その推進のためには様々な取組がもとめられています。このため、学校教育全体の中で計画的に体系的な食に関する指導を行っていくことが必要です。
- ② 学校の教職員全体で食育に取り組む上で、学校全体の食育の目標や具体的な取組についての共通理解をもつことが必要です。
- ③ 児童生徒が食について理解を深め、日常の生活において実践していくためには、学校での指導と併せた家庭や地域社会での取組が必要です。

最初の案件として、食育の必要性、学校での指導ということで、ここで一旦区切りたいと思います。もし何かあれば、元に戻ってお話していただいて結構です。

事務局のほうで、3ページの説明をお願いします。

○事務局

P 3 (食育の推進及び充実について) 説明

○委員長

食育の推進と充実について、資料の中の 6 項目です。先ほどと若干重複していますが、

1 番目として、食育の位置付けについて、学校の教育目標と、指導計画

2 番目として、指導体制の充実、組織をつくり校務分掌に位置付け

3 番目として、子どもへの指導内容の充実、全体計画の策定、指導時間の確保、体験活動の推進等

4 番目として、学校と給食センターとの連携について、学校給食の充実、地産地消の推進

5 番目として、家庭・地域との連携について、生活リズムの向上（早寝早起き朝ご飯）、望ましい食習慣や知識の習得

6 番目として、その他、生産者との交流等、食文化の継承（郷土料理）

1 回目、2 回目、3 回目で食育については大体出てきたと思いますので、このところで一旦終わらして、後の学校給食についても、すでにご議論していただいております。事務局のほうで、次の 4 ページの説明をお願いします。

○事務局

P 4 (学校給食について) 説明

○委員長

この検討委員会において、食育の必要性は子ども達の実態から大切なことであるということが議論されました。それを踏まえた上で、給食は単に栄養のバ

ランスとか、餌ではないという認識をしながら、学校給食のあり方を考えていく必要がある。今、事務局から説明がありましたように、河内長野市周辺の富田林市、大阪狭山市、和泉市の中学校で給食を実施しているということからしまして、口コミで広がっていると思います。このことを考慮しなければいけないと思います。その時に他市で実施している中学校給食の問題点を情報としてすでにいただいておりますが、完全給食の場合、子どもの発達段階で、嗜好、男女間の食べる量の差があるとか、痩身傾向とかいろいろな難しい問題があり、選択性では、そういうことを配慮されているという実態があります。

家庭の事情を考慮していかなければならないと思います。

○委員

子どもの弁当を作ることによって、親子の絆が深まると思います。

○委員長

大阪では中学校の実施率が6.7%と低く、子どもの弁当を作ることによって、親子の絆が深まると思います。

○委員

子どもたちの話を聞いていますと、お弁当を広げるのが楽しみにしているということです。

私の学校で昼食について調査したところ、購買でパンを注文する子と仕出屋さんにお弁当を注文する子をあわせて、全体の13～15%の割合であります。

お弁当を注文する子がない日のほうが多く、注文があっても、多くて日に5人から6人ですが、毎日パンを注文する子は中にいる。

私の学校では「家から弁当持参」と「購買でパンを注文」と「仕出さんにお弁当を注文」の3パターンがあります。

弁当を持ってくることができない子どもは現実にあります。その子達はパンだけということはいわゆるかわいそうなことだと思います。

子ども達は持参する弁当を楽しんでいます。

○委員

子どものために弁当を作らないことが当たり前だと思う家庭が増えてきている。そのことは問題があると思います。子どもの食べている物に無関心な親がおり、もっと関心を持ってほしいと思います。

○副委員長

先日、中学校給食をテーマとしたテレビ番組を見ました。

○委員長

マスコミ等の報道もあり、いろいろな情報があります。副委員長、そのテレビ番組の内容を教えてください。

#### ○副委員長

大阪府内では、31校が補助金をもらってやりだしているということでした。

吹田市では、スクールランチが300円で、メニューを見て注文するのですが、民間の業者にコンビニで入金するというシステムでした。

泉佐野市では、弁当を注文した子どもがそれを受け取りに行き、容器を返却するのに時間がかかり、そのために友達と遊ぶ時間がなくなったという理由で、注文する子どもが1.9%にまで減少したため、中止となったということでした。

富田林市では、中学校の空き教室を調理室に改造して、地元のお米や野菜を使っている。そして、子ども達が調理をしているところを見ることにより、感謝の気持ちがわいてくるということで、中学校給食を進めているところだということでした。

名古屋市では、お弁当とスクールランチと選択制にしたら、57%のスクールランチの申込があった。スクールランチは2種類のメニューの選択制で、温めることができるから、57%まで上がった。

川崎市では、ランチルームを設けており、お弁当かスクールランチを選択して、そこでみんなで楽しく食べている。

#### ○委員長

大阪府内では、31校が補助金をもらってやりだしているということでした。

去年、私は大阪府公立中学校スクールランチ等推進協議会参加しました。その協議会で大阪府が公立中学校でのスクールランチ等の新規事業へ補助金を出すということをもとめました。補助金の金額と年数には制限があります。

全国では、いろいろなバリエーションのあるスクールランチがあり、成功した例あるいは失敗した例があります。それは市の財政事情とか実施形態とかによります。

もし河内長野市でもやるのなら、河内長野市独自のモデルを出す必要性があります。まだ決まったことではないのですが、いずれにしても、いろいろなモデルがあります。今、ここでの話の中では、選択制がうまくいっていないということですが、何か気づいたことはございませんでしょうか。

#### ○委員

現在、私はPTAの母親代表で話し合いをしているのですが、それに参加するお母さん全員が意欲的で、子どもことを考えています。

聞いてみると、ほとんどのお母さんが「給食がいい」と言います。

中学校の補助教員をしているお母さんの話では、中学校へ登校しない、登校しても途中で帰るといった子どもが多くいるということでした。子どもは食欲旺盛だから、給食にしたら、その子ども達は給食だけでも食べて帰ることになら



ないだろうか思うと言っていました。

実際にあった話ですが、ある女子中学生が親の都合で弁当を作ってもらえなくて、何時も昼食にパンを購入していた。そのことを男子中学生から言われたため、それがきっかけで不登校となったということでした。簡単にいかないと思いますが、給食にすれば、引きこもりの子どもは別として、そのような不登校になる子どもはなくなると思うという話もありました。

親が離婚して、お父さんが子どもを引き取ると、お父さんが子どもの弁当を作ることができないため、おばあさんが作り、その弁当は子どもの好みに合わなくて、子どもがその弁当を捨てているという話もありました。

私たち母親代表のほとんどが「給食がいい」という意見ですが、この資料の中にもありますように、弁当の教育的意義を重視される保護者もおられますと書いておられますが、どのような保護者がおられるのかなあとと思います。

#### ○委員長

この議論の中で、「給食がいい」という意見もありましたが、それでも「弁当がいい」という「弁当の意義が大事だ」という意見もありました。ここで決めてしまうようなものではありませんので、みなさんがいろんな意見を出し合って議論していただきたいと思います。どうでしょうか。

#### ○委員

今の話で、お弁当を作ってもらえないから、つらい思いをしている子どもがいるとか、きちんと昼食を食べていない生徒がいるという話でした。それをなんとかしなければいけないと思います。

お弁当を作ることが当然だと思っている親がおられて、その子どもさんも喜んでお弁当を持っていくのであれば、そのほうが良いと思います。

それでも、先ほどの話では「ほとんど全員の方が給食のほうが良い」ということですが、生徒側からしたら、お弁当を喜んでいる子ども達がたくさんいると思います。

私も教師をしながら、しんどい思いをして、子どもの弁当していました。

子ども達にも聞いた上で、実際どれぐらいお弁当が良いと思う子どもの割合かは分からないのですが、現実にお弁当を作ってもらえないため、つらい思いをしている子どもたちに対して支援する方法を考えなければいけないと思います。

#### ○委員

私の小学校でも、給食の残食が非常に多い。

先ほど、おばあさんが作った弁当を子どもが捨てるという話もありましたが、給食を実施することによって、このようなことが解決できることではない。

このことは、むしろ家族の中に問題があるのではないのでしょうか。そこに介

入るのが担任教師であったりするのではないかと思います。

遠足へ行く時に子ども達は弁当を作ってもらっていると安心します。

○委員長

単に食育だけでなく、いろんな教育の視点でお話してくださいました。

4ページの下の部分で、具体的に中学校給食実施に向けて課題等についての提起がありますので、事務局の説明をお願いします。

○事務局

P 4（中学校給食実施について）説明

○委員長

この検討委員会が一步前進するには、いろいろな角度から検討する必要があると思います。そのための示唆・指針はここに揚げていただいたとおりです。

先ほども、大阪府下あるいは全国的に、親の立場からしての思い、子どもからしたらどうなのかという親子の思いの間でギャップがあると聞いています。その点も考えていかなければならないです。

それから、市の財政事情の許容範囲もありますので、そのことも考えていく必要があります。

今後とも、ご検討していただき、事務局もそのような話を踏まえて次回までに準備していただきますようお願いいたします。

この視点について、何かございませんか。

○委員

食育を推進する上での学校給食とありますが、学校給食でなくても、食育を進める上での弁当のほうが自主的に考えたりできるのではないかと私は思います。

小学校では、6年間ずっと給食で食育をしていただいていたので、中学校では学校給食にこだわることなく弁当がよりいいのではないのかなあとと思います。

○委員長

ここでは、学校給食ということで書いていますが、弁当でもいいのではないのかという当事者の意見をいただきました。

○副委員長

いろんなケースを聞いているのですが、お母さんが朝起きないため、子どもが朝食を食べずに学校へ登校して、昼は給食を食べる、夜は夕食がない、1日給食だけの子どもがいる。中学生になると、お母さんから購買でパンを買うための昼食代をもらうが、パンを買わずにお金を貯めている子どもいると聞いています。そのようなことを聞くと、給食があるほういいのではないかなと思います。

○委員長

子ども達の嗜好もありますが、それ以上に、家庭の背景をきちっと踏まえていかなければならないと思います。

○委員

中学生になると自分でおにぎりとかのお弁当を作ることができる。昔は、子どもでもいろんな家事をしていました。

弁当を持たせてくれない家庭への介入は教育だけでなく行政もすべきです。

給食を実施することによって、このことが解決できることではないと思います。逆に親の負担軽減となるが、お弁当を作ることが子どもが中学生である時にしかできない親の仕事だと思っています。

○委員長

食育は食を通じての教育ですから、その分野の中でどうしていったらいいのか、全体的にこれでいいのかを食を通じてもう一度考え直す必要があります。

中学校給食がすべてではなくて、中学校給食を実施するうえでどのような問題があるのかをここで議論していただきたいと思います。みなさんの意見をお願いします。

○委員

公立中学校給食の実施率はどうですか。

○委員長

事務局の説明をお願いします。

○事務局

中学校給食実施率についての説明

○委員

中学生になると自分でお弁当を作れると思いますが、そのような子どもになるにはどのように育てたらいいのかと考えます。

こういう世相ですので、電車の中で朝食のパンを食べた後、歯を磨くような常識のない大人が増えて、はたしてそういう大人の子どもが朝から弁当を作る意欲のある子どもになれるのか疑問です。

先生が言われるように、給食をすることにより、問題解決になるとは思いません。そんな簡単な問題ではないと思います。

今の若者の親を見た場合、どういうふうになっていくのかなあとと思います。

○委員長

給食というのは教育のひとつの姿として、バロメーターとして、食育という視点からすべての学校の教育活動を通じて、何かアクションを起こしていく必要があります。

皆様には本当にいろいろな示唆に富んだ話をさせていただきまして、ありがとうございました。最後に何かございますか。

○委員

中学校給食実施について、食育の観点、生徒からの観点、保護者からの観点、財政的からの観点、この四つの観点しかないので、学校運営からの観点を付け加えていただくことはできないでしょうか。

○委員長

それは必要です。

学校運営からの観点を付け加えます。

中学生になると、早く給食を食べて、早く遊びたい、ということがあります。これは子どもの発達段階では当然のことです。

そういう中で学校での子どもの実態、先生方の指導の考え方があります。

他に何かございませんか。

はい、ありがとうございました。

これで、第3回目の会議は終了とさせていただきます。

次回の会議の日程について、事務局案では、少し期間が延びますが、来年の2月の初旬ごろと考えておられますが、いかがでしょうか

(日程調整により、2月4日に決定)

○委員長

次回は来年2月4日の午後3時に開催します。

本日はありがとうございました。

○事務局

ご審議していただきまして、ありがとうございました。